成田歴史玉手箱
●62回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

楽満寺のガラス絵馬

女性の切実な願いを託す

絵馬はいろいろな願い事を書いて神社やお寺に奉納するものです。この習わしは飛鳥・奈良時代から行われたといわれ、現在でも合格祈願などで数多くの絵馬が奉納されるように、連綿として絶えることなく現在に至っています。

楽満寺に奉納されたガラス絵馬と板絵馬

下総地区の中里の楽満寺、滑川の龍正院などには江戸時代末期から多くの絵馬が確認されていますが、楽満寺には「ガラス絵馬」と呼ばれる珍しい絵馬が残されています。絵馬に描かれているものは、子授けや安産を願う女衆拝み図や夫婦拝み図です。

楽満寺は如意輪観世音菩薩を本尊とし、毎年、春と秋に子授け・安産祈願のため、小観音像が入った厨子を背負い巡回する「背負い観音」が今も行われていることで有名な臨済宗の寺院です。また、大隈重信の母・三井子が安産お礼として奉納した曼陀羅もあります。

ところでガラス絵馬とは、ガラスの表面に下絵の輪郭を描き、その下絵にそってガラスの裏面に泥絵具や油絵具で着色する絵のこと。ガラスに直接描くことで透明感のある独特の効果が得られ、また、額に納めることで外気から絵面を保護することになり、変色・退色を抑制でき色鮮やかな発色を長く維持できる画法です。

日本で板ガラスが生産されるようになった明治時代末期以降のものと考えられますが、奉納年月が分かっているガラス絵馬は、楽満寺(大正8年)、須賀神社(大正15年)、月輪神社(昭和8年)の3枚です。最も大きいものは楽満寺の縦107cm・横135 cmで剥落も少なく非常に見事なものです。当時、ガラスの値段は高額だったと想像できますが、女性にとって安産・子育てがいかに切実であったかが偲ばれます。下総地区には楽満寺の19枚を最高に、須賀神社や月輪神社など計29枚のガラス絵馬が確認されています。これらの絵馬は、当時の庶民信仰の実体を示すものだけでなく、生活や文化を示す大切な資料でもあります。

大隈重信の母・三井子が奉納した曼陀羅

色鮮やかな「女衆拝み図」のガラス絵馬

編集後記

今号の表紙を飾った、市消費者友の会の皆さんと卸売市場の女将さんとの交流会「お魚教室」は、豪快で見事な腕前と巧みな話術でとても好評でした。ところで、卸売市場というと消費者が利用しにくいイメージがあります。そのため多くの皆さんに市場を知ってもらおうと各種のイベントを開催しています。市場内の総合流通センターでは、毎月第4土曜日に試食即売会・抽選会・フリーマーケットなどが。また、秋の「産業まつり」では、鮮魚を格安で提供したりマグロの解体販売やアンコウの吊るし切りの披露など、安さと新鮮さをピーアールしています。

成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

広報なりたは再生紙(古紙配合率 100%、白色度 81.5%)を使用しています。